

【事業の名称】(選定年度2021年度)

インクルーシブ・マインドを醸成するアジア地域国際協働人材育成

【交流推進事業の概要】

・広島大学と東アジア3大学の交流を基盤とし、東南アジア2大学を加えた6大学共同で、対面・同期オンライン・非同期オンラインを組み合わせたハイブリッド型による、アジア地域国際協働人材育成プログラムを実施。
 ・障害の有無、平和観、宗教観、ジェンダー/マイノリティ観の違いから生じるコミュニケーションバリアを認識することで、ダイバーシティ&インクルージョン(D&I:多様性の包摂, 尊重)マネジメントが可能な人材を育成し、広島大学の長期ビジョン「SPLENDORPLAN2017」で謳う「多様性をはぐくむ自由で平和なアジア地域・国際社会」を実現し、国連SDGsの達成、Society5.0の実現に貢献。

【交流プログラムの概要】

ハイブリッド型の体系的な双方向学生交流プログラム:

Program 1: COIL型協働学習(基礎コース)

参加6大学の学生の混成チームで取り組む、オンライン型協働学習

Program 2: 短期留学(オンサイト学習)

東アジア(中国・韓国)と東南アジア(タイ・インドネシア)の2コースに分かれ、広島大学の学生が各国を訪問

Program 3: サマースクール(オンサイト学習)

参加6大学の学生が広島に集い、与えられた課題について討議、最先端研究の体験、平和学習を実施

Program 4: 中期留学(専門コース)

特別聴講学生として、3か月以上の派遣・受入。専門科目の履修、現地企業・関係行政機関等を訪問。

【本事業で養成する人材像】

・障害の有無、宗教、性別、民族の違いをバリアとせず、同じ平和観を共有し、コミュニケーションによる協調によって問題解決にあたる人材
 ・多様性と複雑性が交錯するアジア地域において、Society 5.0及び国連SDGsの実現のために必要とされるコンピテンシー(多様性理解、異文化理解、共感力、コミュニケーション、リーダーシップ、協調性)を備えた、D&Iマネジメントの実践に貢献できる人材

【本事業の特徴】

・対面・同期オンライン・非同期オンラインを組み合わせたハイブリッド型によるプログラム
 ・「平和」、「SDGs理解」、「障害者支援」、「多様性コミュニケーション」、「宗教」、「ジェンダー/マイノリティ」等、各参加大学が得意とするコミュニケーションバリアの解消法を総合し、新たなD&Iコミュニケーション学を創出
 ・COIL型協働学習(基礎コース)、短期留学プログラム及びサマースクール(オンサイト学習)、中期留学(専門コース)を組み合わせた体系的な双方向学生交流プログラム
 ・企業、学校、自治体等のインターンシップ、現場視察等、経験を重視した実践的なプログラム

【交流予定人数】

		2021	2022	2023	2024	2025
派遣	実際に渡航する学生	0	36	36	36	36
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	10	10	10	10
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	0	0	0	0
受入	実際に渡航する学生	0	24	24	24	24
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	40	40	40	40	40
	実渡航とオンライン受講を行う学生	0	0	0	0	0

◎デジタル社会に必要なD&Iを導くグローバルコンピテンシーの育成



1. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【広島大学】

【事業の名称】(採択年度 令和3年度)

インクルーシブ・マインドを醸成するアジア地域国際協働人材育成

■ 交流プログラムの実施状況



〈オンラインクラスの様子〉

・コミュニケーションバリアを認識し、問題解決にあたる人材を育成するプログラムの最初のフェーズとして、参加者が特別支援教育の基礎を学ぶため、“Cultivating a Caring and Inclusive Society for All”をテーマに、2021年1月12日～2月23日の日程で、COIL型教育を実施した。
・言語・宗教・ジェンダーの違いや視覚障害など、多様なバックグラウンドを持つ5か国6大学から合計41名の学生がバーチャルに集い、オンライン上で議論・協働した。

交流プログラムにおける学生のモビリティ

オンラインで実施することによって双方向のプログラムとして提供し、5カ国の学生が集う国際的な学習の場の提供を行うことができた。少人数グループでの協働を重視し、また、TAをつけるなど、学生同士の交流が促進するように努めた。

○ 日本人学生の派遣

広島大学からは、特別支援教育・初等教育を専攻する学部生2名を含む7名が参加した。

○ 外国人留学生の受入

中国から11名、韓国から9名、インドネシアから12名およびタイから2名の合計34名の学生が参加した。特別支援教育を専攻する学生だけでなく、各国の言語を専攻する学生やその他の専攻の学生が幅広く参加したことで、様々なバリアについて実際に体験し理解する機会となった。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

質の保証を伴った大学間交流を行うべく必要な項目を定めた学生交流協定のもと、プログラムを実施している。2021年3月9日には、日本・中国・韓国・タイ・インドネシアの5か国6大学の本事業の実施責任者及びプログラムコーディネーターを含む教職員が、オンラインでキックオフミーティングを実施し、プログラムの目的の共有や、事業実施に係る詳細について協議を行った。同会議では、本事業を通じて養成する人材像及び理念を共有し、「Leave No One Behind(誰一人取り残さない)」を基本理念とする国連SDGsの達成に重要となるD&Iの実践に向けて、協定大学がどう連携すべきかについて協議を行い、共通理解をもって本プログラムを推進する体制と信頼関係を構築した。さらに学年暦及び成績評価基準の情報共有、今後の学生交流プログラムの実施方法等を関係者間で共有し、学生交流を推進する上での課題及び解決方法について具体的な議論を行った。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

・実施責任組織として理事・副学長を議長とし、学生交流プログラム担当教員からなる実施部会、プログラム運営支援のための専任職員を配置し、企画・実施運営、参加学生への案内や事前・事後研修の補助及び現地研修の引率、受入れ学生の修学・生活面での支援を行うといったシームレスな全学体制を構築し、プログラムの円滑な実施に向けた準備を整えた。

・本事業で実施する学生交流プログラム用の科目を新規開設し、シラバスに沿ってそれぞれの学生交流プログラムを実施する体制を整備した。

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況

情報の公開、成果の普及

共同実施大学とのキックオフミーティングにおいて、各大学の取り組みについて教員が情報共有を行ったことで、関連分野での知見を得ることができた。また、COIL型教育に参加した学生が学習成果について発表し、意見交換を行ったことで、翌年度からのプログラムの高度化に繋げることができた。本事業の専用ホームページを公開したことで、広く世界に成果を公表できる環境を整えることができた。令和4年度はすべてのプログラムを実施し、成果を広く公開していく予定である。

■ グッドプラクティス等

COIL型教育に、広島大学に加え長春大学、インドネシア教育大学の教員の協力が授業を提供し、各国の特別支援教育の現状や取り組みを共有したことにより、多角的な視点からテーマについて深く学ぶ機会を提供することができた。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	10	7
学生の受入	40	34



〈 ホームページを開設 〉